

優 秀 賞

水は還る

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校

三年 園 田 桃 子

私の通学路沿いには、牛久沼がある。幼い頃から何度も行っている、私にとって思い出が詰まった大切な場所だ。

橋の上から見た、日の出に照らされきらきらと輝く牛久沼は美しい。沼で釣りをしている人もよく見かける。沼を一望できる水辺公園の展望デッキは、人々の憩いの場だ。また、白鳥を間近で見ることができ、雛が誕生すると喜びの声が上がる。水の周りにはいつも人が集まっていて、水は人と人とを繋ぐ存在なのだ実感する。水には人を惹きつける力があるのだ。

水質汚濁の問題が頻繁に取り沙汰される中、ふと牛久沼の水の状態が気にかかった。茨城県のホーム

ページには、牛久沼の汚濁負荷のグラフが示されている。水の汚濁の程度を表す指標であるCOD、全窒素、全リンのどの項目でも上位だったのが生活排水だ。生活排水とは、台所やトイレ、お風呂や洗濯など日常生活から出た水のことを指す。水が私達の生活を支えているからこそ、その割合も大きくなってしまふのだ。

生活排水は、地下にある下水道管を通過して下水処理場へ運ばれる。ここでそれぞれの役割を持つ槽を通過してゴミや汚れを取り除く。微生物が汚れを食べることを利用して、水を綺麗にしているようだ。そうして処理された水が川へと流される。

では、下水処理場で処理されてから川へ流されるから、何でも好き勝手に流してしまってもいいのかもしれない、決してそんなことはない。ゴミを流せば下水道管の詰まりの原因になるし、処理できる量にも限りがある。

「水を大切に使いましょう」という節水のスローガンは、きちんと守ってきたつもりだ。しかし、自分達が使ったあとの水がどうなるのか、ほとんど意

識していなかったことに気がついた。

また、人間の体のおよそ六割は水でできていると言われている。水は海や地上から蒸発して雲となり、雨や雪となって地上に降り、集まって川になって海へ流れ、私達が口にする水として還ってくるのだ。海や川の水が汚れた分だけ、自分や大切な家族の体も汚れていくのではないか。

水の一生は、人間が使って終わりではない。だからこそ、水は使う時だけでなく、使ったあとまで大切にしなければならないのだ。例えば、水切りネットを利用して、野菜の皮や種などを流さずに取る。お風呂場や洗面台に落ちやすい髪の毛も拾ってゴミ箱に捨てる。お皿についた油や汚れは洗う前に拭き取る。どれも些細な行動だが、継続すれば、牛久沼だけでなく他の川や湖の汚染も防ぐことができる。

水を大切に使う人の体を流れる水も、川に平気でゴミを捨てる人の体を流れる水も、一つの川になり、海になり循環している。水は還る場所を選ばない。だが私には、汚れた水は汚した人の元へ還り、綺麗な水は水を大切にする人の元へ還っていくように思

えるのだ。

足元にあるマンホールには、下水が流れているものもある。その水の色を想像したことはあるだろうか。すぐ横を流れる川の水が巡り巡って、いつか蛇口をひねったときに出でくるかもしれない。少し意識するだけで、歩き慣れたいつもの道にも、巡る水の音が聞こえてくるようだ。人間も大きな水の流れる一部だと気づき行動する人が増えれば、きっと私達を取り巻く水は美しく澄んだものになっていくだろう。

今日も通学路からは、いつもと同じ牛久沼の風景が見える。今日の牛久沼は、いつもよりもっと輝いて見えた。